

# 新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体について

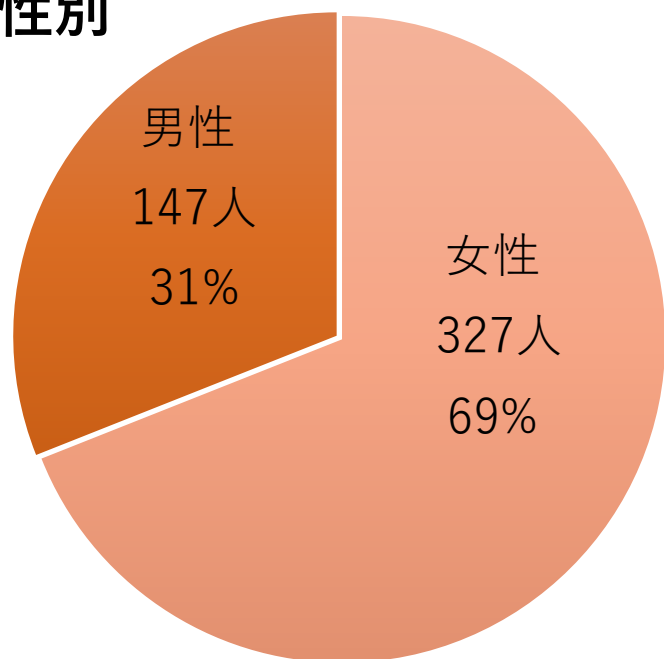
令和3年5月20日

対象：医療従事者 474名

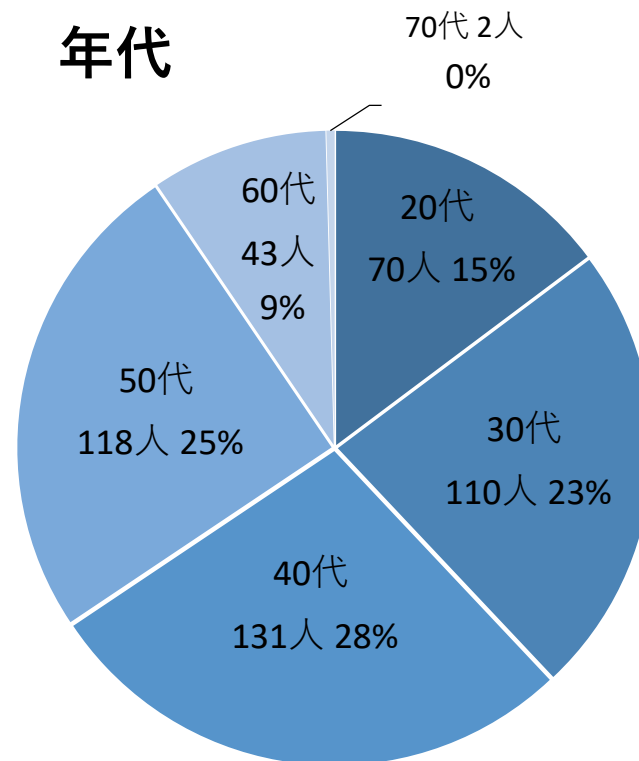
調査実施日：令和3年3月～4月

抗体検査日：ワクチン接種前とワクチン2回目接種後3～4週間後  
※ファイザーのmRNAワクチン

## 性別



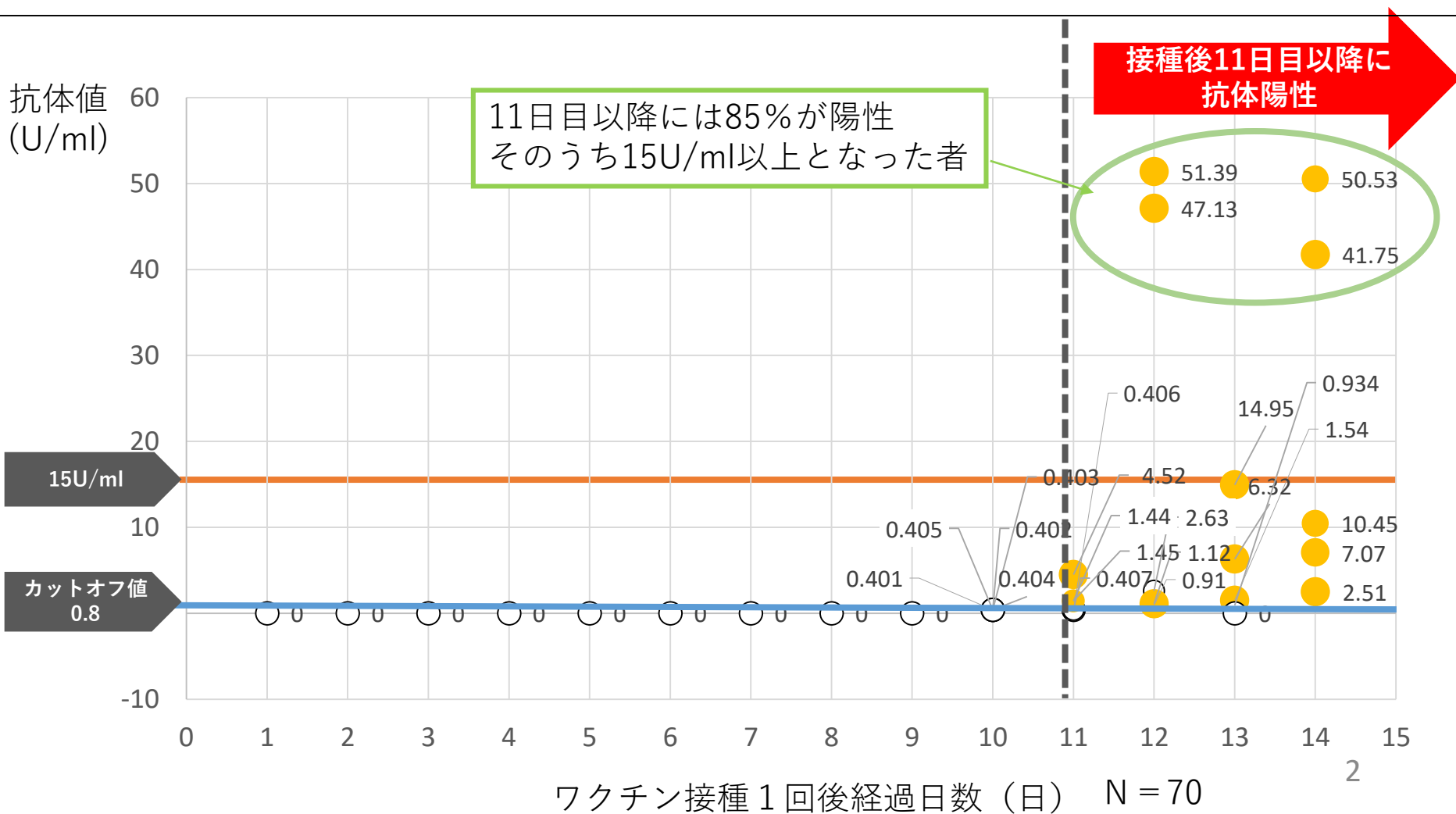
## 年代



※検査協力医療機関：県内病院

# 新型コロナワクチン接種後の抗体について

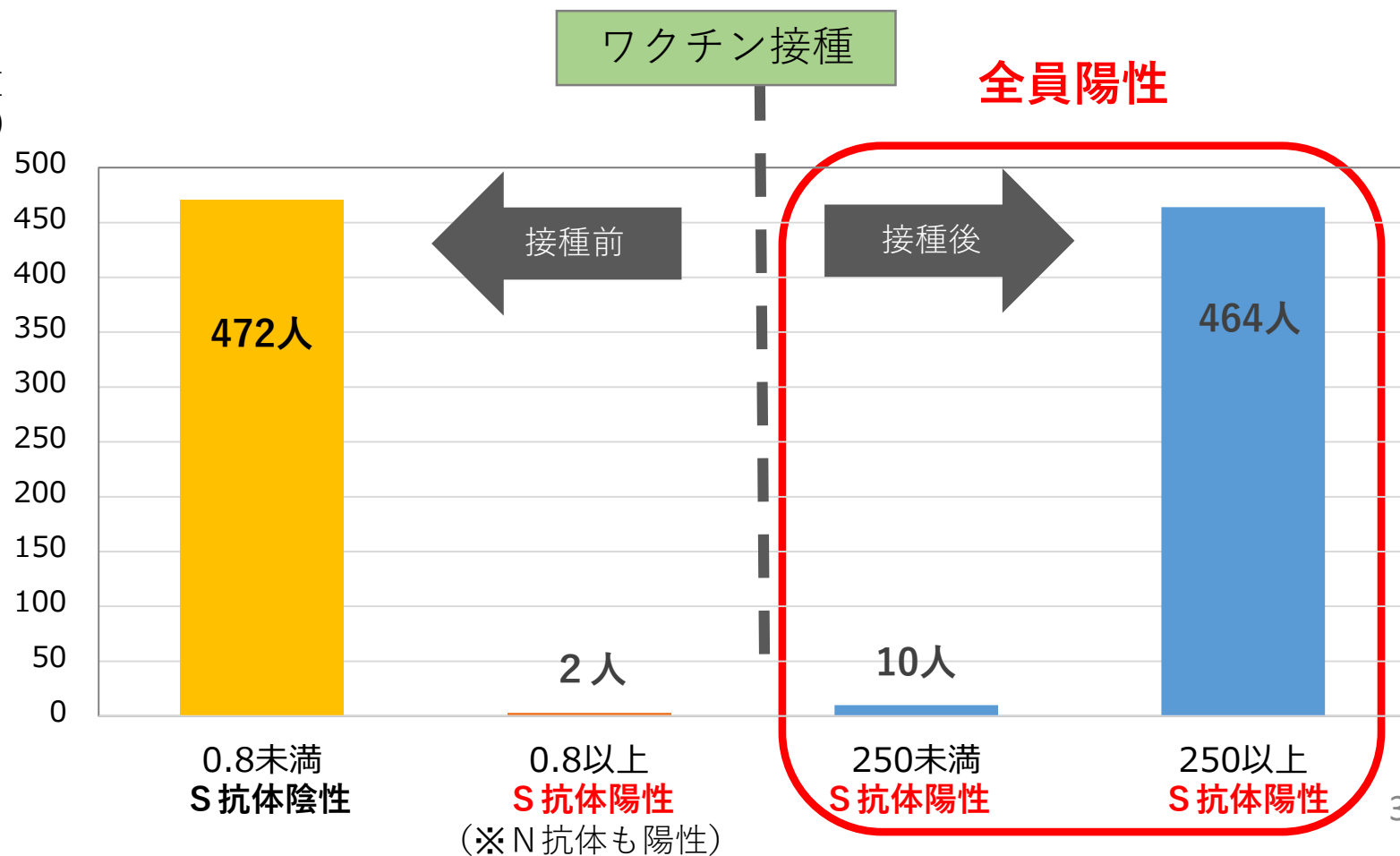
- 新型コロナワクチンを1回接種後の抗体値をみると、接種後11日目以降に陽性となっていた。ウイルスの感染の成立を防ぐとされる中和抗体は、S抗体値が既感染者の場合15U/ml以上で獲得するとされているが、1回接種後14日以内では抗体陽性者のうち約24%の者が15U/mLを超えていた。従って、ワクチン1回接種後2週間は感染しうると考え感染予防策の徹底が必要である。 ※S抗体とはウイルスのスパイクタンパク質に対する抗体



# 新型コロナワクチン接種後の抗体について

- 新型コロナワクチン接種の前後の抗体値を調べた。接種前に家族内感染していた者がごくわずかいた（0.4%：N抗体検査も陽性）。2回のワクチン接種によりS抗体は全員陽性となった。また、98%の者は高力価（250 U/ml以上）の陽性であった。2%に抗体値が高力価でない者もいたが、既感染者で中和抗体が陽性となるとされる15 U/mlは超えていた。従って、ワクチンを2回接種後3週間以上経過すればかなりの確率で発症リスクは減少すると推察

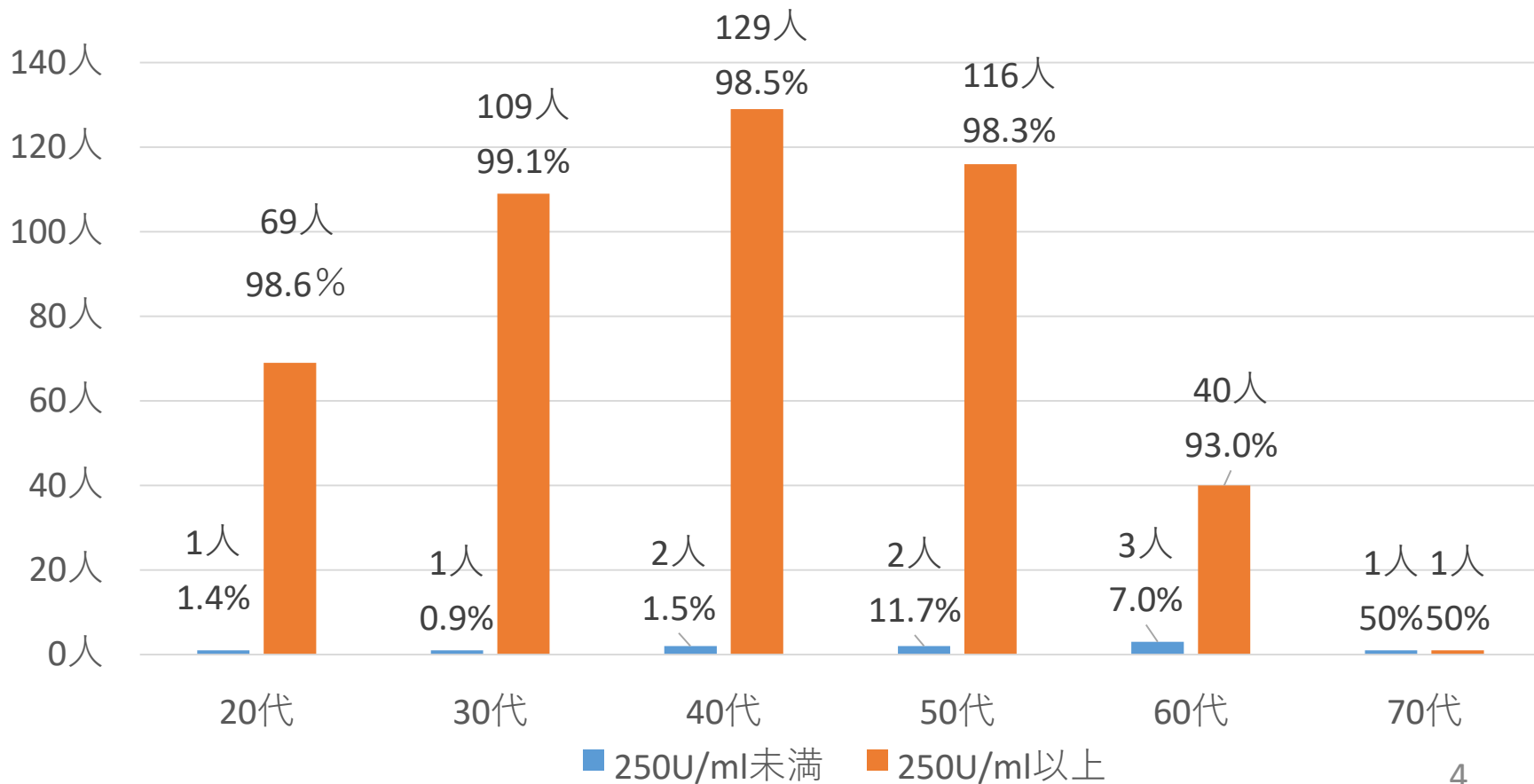
抗体値  
(U/ml)



# 新型コロナワクチン接種後の抗体について

- 新型コロナワクチン2回接種後のS抗体値を年代別に見ると、各年代で高力価の者がほとんどであった。その割合は60代ではやや低かった。70代は対象数が少ないため評価は不能である。なお、250U/ml未満の者も感染の成立を防ぐとされる中和抗体価が既感染者で陽性となるとされる15U/mlは超えていた。ワクチン接種により獲得されたS抗体がどれくらい持続するのかについては不明であり、経過を見る必要がある。

S抗体陽性者の年代別抗体値の状況



# P C R 陽性者の抗体値と発症日起算日数の相関

○ 令和3年2月16日発表した新型コロナウイルスP C R 陽性者の抗体の推移をみると、感染後13か月以上経過しても陽性でN抗体が50c o I 前後となっている事例が2例存在した。しかし、全体的には感染後それらの抗体値も次第に減少している。また、P C R 陽性となった感染者でも抗体が上昇していない事例もあることなどから過去にP C R 陽性になった者も新型コロナワクチン接種が望ましいと考える。

